

平成二十年度花菖蒲観賞旅行

鳥取県米子市 吉灘秀一

平成二十年度の協会観賞旅行は、六月二日から二泊三日で鳥取島根方面を周遊いたしました。今回は、飛行機を利用された方々は鳥取空港で、JRを利用（新幹線・岡山経由）された方々は倉吉駅で、鳥取支部の面々が、二方面に分かれてお迎えをいたしました。



あやめ池

鳥取空港からは山脇夫妻、山根夫妻の自家用車、倉吉駅からは貸切マイクロバスで、鳥取県中部の（財）鳥取県観光事業団が運営している中国庭園燕趙園に一三時三〇分に合流しました。道中お疲れだということ、燕趙園に隣接している中国飯店で一息入れることとしました。その後、燕趙園に入園し中国雑技団による華麗なる妙技を観賞、岡森（財）鳥取県観光事業団理事長の案内で異国情緒溢れる庭園、建物、置物の解説を拝聴したあと、次の旅行地である東郷湖羽合臨海公園内にあるあやめ池に一五時に到着しました。岡藤理事長のご配慮で抹茶席が用意され近隣のご婦人のお点前で当池に植えられている色とりどりの花菖蒲を観賞しながら一服するといふなんと風流なひと時を経験させてもらいました。当日は、生憎の雨模様でしたがテントの内や傘を差しながらの鑑賞でした。これもまた花菖

蒲にマッチして心地よい風情を醸し出していました。
『静かなる 雨こそ佳けれ
花菖蒲』

昨年亡くなられた石川もり子さんのご主人が詠まれた俳句だそうです。今回の旅行にピッタリの俳句と思いが紹介させていただきます。

あやめ池を一時間ほどで切り上げ、次はいよいよ初日、最後の鑑賞地である山脇先生宅に向かうこととなります。その山脇先生宅の庭には、紫陽花、松、



山脇邸

ボタン、庭石が配置され五百坪の宅地に、個人宅とは思えない羨ましい庭園となっております。六千株の花菖蒲が植栽されていると聞きます。これをひとりで大切に管理しておられます。また、めずらしい江戸時代に出来たという「宇宙」という品種や、交配種「琴浦櫻」があります。いよいよ椎野会長ほか三二名の会員が次々と先生宅の門をくぐり庭園に入ると第一声『ホッ！』という驚きの声があがりました。会員一同、広い庭園で先生の解説を聞いたりしながら庭を散策する。二〇分くらいそれぞれが散策してから、新聞、テレビメディアの記者が椎野会長、山脇先生、数名の会員がインタビュー取材を受けました。それから、ビニールハウスで会員の方々は、山脇夫妻が準備された大柴スイカを切る人、運ぶ人、食べる人、忙しいこと。花菖蒲の配置は当然としても「天候が雨模様ならこうしよう」とか「晴れならこれで良い」とか両方のことを想定してご夫妻でご準備をされたと思います。雨を想定した場合は、「ビニール

ハウスの内でテーブル、椅子を出してスイカを食べていた。う。「晴れていたなら、庭で食べていた。あれやこれや考えられたことでしょう。」

山脇宅滞在もあつという間に時間が経ち、予定時刻は夕方五時となり、名残惜しいが鳥取県中部から西部に場所を移動しなければなりません。

第一日目、宿泊するホテルは、米子市皆生でも指折りの『つるや』に向けて出発です。山陰道幹線の国道九号線を西方面に向けてひた走る右手は日本海、左手は霊峰大山（一、七一メートル）を遠く見ながらバスは走りました。

バスのなかはそれぞれの会員の方々は、隣同士でワイワイガヤガヤ話している。ホテルつるやにバスは到着しました。ホテルつるやは、皆生温泉の中でも指折りのホテルです。ホテルつるやのロビーで皆さんが全員到着したのを確認して、部屋割りごとにそれぞれ入りました。午後六時半ごろになったでしょうか。旅行カバンを整理した後、風呂に行き旅の疲れを癒

しました。

午後七時から懇親会がありました。宴会場に浴衣姿で出かけた人、私服で出かけた人いろいろでございます。上席には協会の役員の方々がお座りになり、その他の会員は知り合い同士話し易いようにお座りになっていくようにしました。新参者の私も山根さんの隣りに座り安心しました。

小山さんの司会進行で、椎野会長のあいさつ、山脇先生のあいさつにつづき小林さんの乾杯の音頭により第一日目の宴会が始まりました。皆さんは、食事をしながら、既に知り合い同士とみえて最初から和気あいあい話しが弾んでいる様子。宴会も中盤にさしかかると、山脇先生がまず歌を披露されました。ついで小林さんの歌がつづき宴会は、ヒートアップに至りました。各人、席を移動し四から五人が車座となり花菖蒲の育成の方法等について教える方、教えを請う方で議論されていました。そんなグループが、いつのまにか何組も出来ていました。新参の私も勇気を出して、ビールを注

ぎながら話しの輪に入っていました。楽しい宴会も終りに近づき、元の席に戻り盛況のうち締め乾杯となりました。

第二日目の朝、起床し朝風呂に入り、外を見ると、また今日も残念ながら雨模様。でも霧雨みたい。午前八時半にホテルを後にしてとっとり花回廊へ出発です。四〇分ほどでとっとり花回廊をあとにして、次の旅行地は、島根県と鳥取県に挟まれた中海に浮かぶ大根島にあるボタンと朝鮮人参で有名な由志園で



とっとり花回廊にて

す。

昼食の席に門脇社長のお出迎えを受け感激しました。その会席から鑑賞する回遊式日本庭園の池に植えられた花菖蒲や浮かべたイカダに植えられた花菖蒲はめったに見られない価値のある風情を醸し出していました。その回遊式日本庭園の池には浮島あり池の畔には低く捻じった黒松、池に飛び出したモミジ、石組等を配していました。

由志園は、春は牡丹、夏は菖蒲、秋は紅葉、冬は寒牡丹を売りとする山陰一の規模を誇る回遊式庭園。また、「牡丹の館」では、色鮮やかな大輪の牡丹を一年中鑑賞出来ます。以前は牡丹だけを売りとして経営していましたが、牡丹が終わってから咲く花として花菖蒲を選定し、現在は専属員も付け力を入れている。なお、門脇社長は、『昔は全国の各地に自ら牡丹を持って行商をしました』とのこと。大根島は、鳥取県と島根県の県境にある中海に浮かぶ玄武岩の島です。この島は火山活動により溶岩が噴出したことにより出来た島。ほとんどの島民は、



由志園

狭い耕地と小規模な漁業が生業であったが江戸時代から朝鮮人参、第二次大戦後から牡丹の栽培で生計を立てています。ビール、酒も出され、皆様、真つ昼間から顔は赤く染まっています。赤い顔をして回遊式日本庭園をそぞろ(千鳥足の方はいませんでした)歩きで散策して一周しました。皆様まだまだ元気いっぱいとお見受けしました。二時間ほど滞在した由志園をあとにして次の到着地は、松

江城下です。

松江市街に入ったバスは、左手に宍道湖を松江大橋を渡り島根県庁、松江城大手前からお堀沿いに武家屋敷、小泉八雲(ラフカディオオハーン)旧宅前をとおり堀川遊覧乗船場に到着しました。松江城周辺の武家屋敷と堀川遊覧が予定されていますが、まず堀川遊覧に乗船することにしました。遊覧の屋形船に乗船し出発。米子生まれの私も初めての経験です。一段低い川面から見る松江の家並みは目線が下から上を見ているので、バスの中から眺める家並みと違いのあの発見が随分ありました。松江城の堀を約五〇分かけて船頭さんは松江城や武家屋敷、塩見縄手の老松などガイドをしながら屋形船を運航しています。私達は、船にゆられながらゆったり眺めています。たまに水しぶきがあたることもありまた橋が近づくと屋形を閉じることから腰を曲げて伏せる姿勢をとらねばならない。その都度『キヤー、ワー』と喚声があがっていました。久しぶりに童心にかえり楽しいひと時を過ごしまし

た。この遊覧船は、午前九時から一五分間隔で午後五時まで運行しているという。なんと大勢の観光客が乗船するんだなと想像しました。

船を降りてから、武家屋敷や小泉八雲旧宅、お土産を買うグループと松江宍道湖畔にあるホテルなにわ一水に行くグループに別れて行動することになりました。松江は満々と水をたたえる宍道湖がある水の都といわれます。夕方六時から七時の時間帯が太陽が湖面に沈む前、茜色の変幻の雲を眺め湖面は太陽の光が揺れながらキラキラと輝いて見える光景は空も湖面も茜く染まる様は素晴らしい。今夜は、松江温泉ホテルなにわ一水での宴会で疲れを癒すこととなりました。

宴会場に集合された皆さん、疲れた顔も見せず元気です。疲れを感じていない顔、顔、顔です。花菖蒲協会の役員の方は、上席に座られました。何を勘違いされたのか？私も上席にと促され、固辞をしましたが許してもらえずやむを得ず広島島の三輪さんの隣に座ることになりました

た。その他の会員の方もお座りになり乾杯の音頭により宴会は始まりました。皆さんの自己紹介の機会が設けられ、新入りの私は、つい盛り上げのためにもと歌う約束をしてしまいました。なにせ二日目ともなりますと、思い出話しや今日の出来事やら花菖蒲の栽培方法やら皆さん楽しそうに会話がはずみます。席もどんどん空いてきて移動される方が増えてまいりました。

歓談に花が咲いてるころを見計らい誰が一番に歌ったやら思い出せません。一度、歌が出たら次から次にリクエストが止まらない状態となりました。ソロありデュエットあり舞台でダンスあり女性コーラスあり盛り上げに協力してくださいましたのか？それとも楽しくて自然に盛り上がったのか？いまでもわかりません。最後は、小林さんと私と二人で指揮をして『ふるさと』(うさぎ追いかの山 小鮎釣りし……)を男性も女性ステージに出て合唱し宴会も終りとなりました。時間もついつい予定時刻も超過し、老いてますます



盛んな宴会でした。三々五々、部屋に帰るが夜がふけるまで話しをしていました。それにもかかわらず、朝は早く目覚め、朝風呂に入られる方多し。

日本海新聞の朝刊に山脇先生宅で取材をうけられた椎野会長と徳島の大崎さんの声が記事となっていました。椎野会長「さすがに山脇さんの技術と熱意だと感銘しています」大崎さん「素晴らしい声にならない」写真も載っていて、山脇先生、山根さん、三宅さん、小串さん夫婦

が写っていました。さぞや記念になったことでしょう。

朝食時、記事をホテルでコピーし皆様に配ると、それでまた思い出に色を添え食事も美味しくいただけました。

第三日目の旅行地は、松江温泉から三〇キロ西方にある出雲大社、島根ワイナリー。ホテルを三〇分早めて午前八時半に出ることになりました。皆さん、ホテルでも土産物を買ったり、ロビーでコーヒーを飲んだりくつろいでおられました。さて、今日も元気で出発です。

約一時間かけて出雲市に入る。出雲大社の次に行く島根ワイナリーが左手に見えてきました。大社まで二キロです。アットという間に大社の大鳥居が見えてきました。この辺を通過するとなんとなく神話の国出雲の看板があちらこちらあり、厳かな雰囲気を感じられます。

出雲大社に大鳥居を右に折れると、すぐに右手に大駐車場。バスのフロントの「日本花菖蒲協会様」の表示を見て、出雲観光センターの職員が旗を持って近づいてきました。その旗を持ったガイド

さんの周囲に、皆さん集合し、出雲大社の見学です。

ガイドさんの案内で出雲大社本殿に向けて全員が歩いて行く。銅鳥居、拝殿を通過するといよいよ本殿の敷地内、手と口を清めてから厳かな雰囲気漂う。本殿(国宝)は、二四メートルの高さがあり、切妻造で厚い檜皮葺の屋根の棟にそびえる千木は、長さ八メートル、三本の勝男木は、長さ六メートルあり雄大さ

とともに簡素な原始の風格が感じられます。この建物は二六四年前に建てたものだそうです。大社の祭神は、大国主神で大黒さんとわれ大きな袋を肩にか

け、片手に打出の小槌をもって俵の上に、ここに顔で座っている姿が有名で七福神の中心的存在である。ご利益は、財福の神、縁結びの神として定着し民間信仰が広範囲にひろまった。皆さんは、傘を差しながら本殿の屋根を仰ぎ見ておりました。また、本殿の左右対称側に十九社という細長い建物があります。これは、十月に全国の神様が集まり、宿泊するホテルという。なお、出雲地方は、神無月とは

言わず神在月という。

本殿八足門前の登り坂で記念撮影。御神籤を買われる方もいらしゃった。財福かな？縁結びかな？私は、その方にご利益がありますように祈らずにはいられませんでした。

昼食のため、今回の旅行の最後の目的地である島根ワイナリーに到着。注文しておいた幕の内弁当をいただいた後、時間も十分あり土産物店でブドウを原料としたお菓子、ブドウ酒の品定めをされていたのは、女性の方々。男性はというと、辛口、甘口の数種類のワインが無料で遠慮なく飲めるコーナーがあり、嬉しかった。

飛行機の方は、米子空港へ！新幹線の方は、米子駅へ！その他の方もその日のうちに、無事自宅へお帰りになりました。最後に、趣味を同じくする者同士が集まり、楽しい2泊3日の道中を共有することができたのも花菖蒲協会の役員の方の多大なご苦労と大変なお世話によること一言付け加えさせていただきます。ありがとうございます。